



# IYC2025ニュース第14号

2025年11月20日発行

編集  
・  
発行

2025国際協同組合年全国実行委員会 <https://www.japan.coop/iyc2025/>

事務局 一般社団法人 日本協同組合連携機構  
東京都新宿区市谷船河原町11番地 飯田橋レインボービル5階

JCA Japan  
Co-operative  
Alliance

COOP

## 【contents】

- ① “協同”がよりよい世界を築く～連続シンポジウム・座談会 第8回「地域の未来を共創する協同組合のジェンダー平等」のご案内
- ② “協同”がよりよい世界を築く～連続シンポジウム・座談会 第9回「暮らしを支える医療・福祉」のご案内
- ③ “協同”がよりよい世界を築く～連続シンポジウム・座談会 第5回「防災・減災・生活再建と地域づくりへの貢献」の開催報告書をアップしました
- ④ “協同”がよりよい世界を築く～連続シンポジウム・座談会 第6回「こども・若い世代が主役の社会をめざして～みんなで育てる未来～」の動画をアップしました
- ⑤ “協同”がよりよい世界を築く～連続シンポジウム・座談会 第7回「食料安全保障をめぐる状況と協同組合が果たすべき役割」の動画をアップしました
- ⑥ 「協同組合がよりよい世界を築く～チャレンジムービーコンテスト2025」表彰作品選考方法のご案内
- ⑦ 全国各地の2025国際協同組合年の取り組み

# ①“協同”がよりよい世界を築く～連続シンポジウム・座談会 第8回「地域の未来を共創する協同組合のジェンダー平等」 のご案内

## 1. 本企画の趣旨・ねらい

日本は人口減少・高齢化が進む一方、女性の政治・経済分野での参画の遅れが指摘されています。女性の力が十分発揮されず、社会の課題解決に遅れをとっている状態だといえます。

ICAの協同組合のアイデンティティ声明は、協同組合は人々が自発的に参加する組織であり、ジェンダー（性）による差別を行わないこと、平等・公正・連帯を価値とすることを掲げていますが、日本の多くの協同組合では、女性の役員や管理職の数が限られており、引き上げに向けての努力が続けられています。

そこで本シンポジウムは、地方創生戦略の一つとしてジェンダーギャップの解消をめざした豊岡市の考え方と実践について、元市長の中貝宗治氏からご講演いただき、農業協同組合と生活協同組合のそれぞれから、女性職員の育成・参画に取り組まれている事例をご報告いただきます。

これらを通して、協同組合でのジェンダーギャップの解消が、組織と地域の未来開発と表裏一体であり、地域社会に貢献する方策の一つであることを確認し、今後どのように加速していくかについて論議します。

## 2. 概要

日時：2025年12月3日（水）13:30～15:45

開催形式：WEB開催 \*後日オンデマンド配信を予定

参加費：無料

申込方法：下記申し込みフォームよりお申し込みください。

<https://ws.formzu.net/fgen/S95260246/>

申込締切：11月27日（木）



## 3. プログラム(予定)

開会挨拶・趣旨説明

講演：

「ジェンダーギャップって何だろうーまちや企業が消えるかもしれない大問題ー」  
豊岡アートアクション理事長、元豊岡市長 中貝宗治氏

事例報告：職場における女性の参加・育成に向けた取り組みについて、協同組合組織としての考え方を踏まえた上で、取り組み内容や成果だけでなく、取り組む上でのポイント、障害となること、その乗り越え方などについて、できる限り具体的にご報告いただきます。

- ①「女性活躍推進プロジェクトが実現する全ての職員が働きやすい職場づくり」（仮題）

JAグリーン近江 イノベーション統括室 課長補佐 植田好氏

②「生協ひろしまにおける女性職員の育成、生協間交流について」（仮題）

生協ひろしま 専務理事 高浦美穂氏

登壇者によるパネルディスカッション

閉会挨拶・まとめ活動紹介：

5. お問い合わせ先

日本協同組合連携機構（JCA）IYCプロジェクトチーム

担当：丹後 03-6280-7275 [s-tango@japan.coop](mailto:s-tango@japan.coop)

藤田 03-6280-7214 [c-fujita@japan.coop](mailto:c-fujita@japan.coop)



## ②“協同”がよりよい世界を築く～連続シンポジウム・座談会 第9回「暮らしを支える医療・福祉」のご案内

### 1. 本企画の趣旨・ねらい

諸外国に類を見ないスピードで高齢化が進む日本では、医療・福祉・介護の分野において地域の担い手不足が深刻な課題となっており、それぞれの制度の狭間にある二一ズに柔軟に対応できる地域の助け合いの力が必要とされています。

本シンポジウムでは、そうした状況をふまえ、誰もが生き生きと暮らし続けられる地域共生社会の実現に向けて取り組んでいるさまざまな事例をご紹介します、協同組合による多様な組織との連携の可能性を探り、これからの課題や展望について多角的に考える場とします。

### 2. 概要

日時：2025年12月13日（土）14:00～17:00

開催形式：WEB開催 ＊後日オンデマンド配信を予定

参加費：無料

申込方法：下記申し込みフォームよりお申し込みください。

<https://ws.formzu.net/fgen/S87841596/>

申込締切：12月8日（月）



### 3. プログラム(予定)

開会挨拶・趣旨説明

特別報告：



- ①「助け合いの地域づくりを共に ～誰もが自分を生かして幸せに暮らせる社会をつくろう～」公益財団法人 さわやか福祉財団 理事長 清水 肇子氏
- ②「ノウフクは日本を世界を救うか？」一般社団法人 日本農福連携協会 会長理事 皆川 芳嗣氏

事例報告：

- ①介護サービスでの社会参加と協同の実践  
福井県民生活協同組合 常務執行役員 蓬萊谷修久氏
- ②誰もが健康で居心地よくくらせるまちづくりへ  
愛媛医療生活協同組合 愛媛生協病院 副院長 原 穂高氏
- ③ブランディングが紡ぐ病院協同  
愛知県厚生農業協同組合連合会 足助病院 病院長 小林 真哉氏

登壇者によるパネルディスカッション

コーディネーター：大阪大学大学院 人間科学研究科 教授 斉藤 弥生氏

閉会挨拶

※報告順・報告タイトルは変更になる場合があります開会挨拶・趣旨説明

## 5. お問い合わせ先

2025国際協同組合年全国実行委員会 事務局  
日本協同組合連携機構（JCA）協同組合連携2部  
担当：小島 03-6280-7294

[m-kojima@japan.coop](mailto:m-kojima@japan.coop)



## ③“協同”がよりよい世界を築く～連続シンポジウム・座談会 第5回「防災・減災・生活再建と地域づくりへの貢献」の開催報告書をアップしました

7月14日（月）に開催しました「防災・減災・生活再建と地域づくりへの貢献」の詳細な開催報告書を公開いたしました。登壇者資料や動画とあわせてご覧ください。

報告書はこちらからご覧いただけます。

[https://www.japan.coop/wp/wp-content/uploads/2025/11/IYC2025\\_symposium\\_report\\_part5.pdf](https://www.japan.coop/wp/wp-content/uploads/2025/11/IYC2025_symposium_report_part5.pdf)



動画はこちらから視聴できます。  
<https://youtu.be/Jnv9rm4Hfaw>



登壇者資料はこちらからご覧いただけます。  
[https://www.japan.coop/wp/wp-content/uploads/2025/11/IYC2025\\_symposium\\_materials\\_part5.pdf](https://www.japan.coop/wp/wp-content/uploads/2025/11/IYC2025_symposium_materials_part5.pdf)  
※一部資料のみの掲載となります。



#### ④“協同”がよりよい世界を築く～連続シンポジウム・座談会 第6回「こども・若い世代が主役の社会をめざして～みんな で育てる未来～」の動画をアップしました

10月10日（金）に開催しました「こども・若い世代が主役の社会をめざして～みんな  
で育てる未来～」の動画を公式YouTubeにて公開いたしました。ぜひご覧ください。

動画はこちらからご覧いただけます。  
[https://youtu.be/iloj\\_gNmKMA](https://youtu.be/iloj_gNmKMA)



#### ⑤“協同”がよりよい世界を築く～連続シンポジウム・座談会 第7回「食料安全保障をめぐる状況と協同組合が果たすべき 役割」の動画をアップしました

10月21日（火）に開催しました「食料安全保障をめぐる状況と協同組合が果たす  
べき役割」の動画を公式YouTubeにて公開いたしました。ぜひご覧ください。

動画はこちらからご覧いただけます。  
<https://youtu.be/Na-l8B6B40Y>



#### ⑥「協同組合がよりよい世界を築く～チャレンジムービーコン テスト2025」表彰作品選考方法のご案内

「協同組合がよりよい世界を築く～チャレンジムービーコンテスト2025」（略称  
「協同組合のチカラ！ムービーコンテスト」）の「いいね！賞」（ショート動画部門・  
ロング動画部門）および「IYC2025賞」（ロング動画部門）は以下の方法で選考・決定  
します。応募は11月30日まで受け付けています。

## 1. 「いいね！賞」(ショート動画部門・ロング動画部門)の選考方法

【ショート動画部門】 **2026年1月5日(月) 10時時点**のInstagram「いいね」数1～5位の動画を「いいね！賞」(賞金1万円)として表彰します。

※入賞の連絡は、応募者(投稿者)のInstagramのDM宛てに行います(1月下旬を予定)。

【ロング動画部門】 **2026年1月5日(月)10時時点**のYouTube「いいね」数が最も多い動画を「いいね！賞」(賞金5万円)として表彰します。

※入賞の連絡は、応募者のメールアドレス宛てに行います(1月下旬を予定)。

## 2. 「IYC2025賞」(ロング動画部門)の選考方法

「協同組合の持続可能な開発目標(SDGs)に貢献する取り組みへの理解と共感の促進」の観点に基づき、IYC2025全国実行委員会幹事会にて厳正な審査を行い、決定します。

※入賞の連絡は、応募者のメールアドレス宛てに行います(1月下旬を予定)。

## 3. 表彰

3月24日(火)に開催する第3回IYC2025全国実行委員会において表彰します。表彰団体にはオンラインでの参加を要請します。


### 応募作品はこちらからぜひご覧ください。

1月5日(月)まで、「いいね」での応援をよろしくお願いします。

【[Instagram](#) (ショート動画部門)】

アカウント名：2025国際協同組合年全国実行委員会

ユーザー名：IYC2025\_Japan\_Committee

※マークより、「いいね」を各投稿元へ送ることができます。



【[YouTube](#) (ロング動画部門)】

アカウント名：2025国際協同組合年全国実行委員会

ユーザー名：@2025国際協同組合年



## ⑦全国各地の2025国際協同組合年の取り組み

### ●コープさが生活協同組合の役員研修会で講師を務めました

9月12日(金)、佐賀県内にあるコープさが生活協同組合の役員を対象とした研修会が開催され、JCAの協同組合連携1部の池田聡連携推進マネージャーが講師を務めました。

た。参加者は25名でした。

講演は、「協同組合の広がり」、「IYC2025」、「協同組合が大切にしていること」の3部構成で行われ、参加者にIYCというチャンスの年に、協同組合の理念をあらためて確認し、2026年以降の行動につなげることを呼びかけました。

今回は冒頭にアイスブレイクを取り入れたことで、リラックスした雰囲気の中で研修会が進みました。特にIYC2025全国実行委員会が主催する「協同組合のチカラ！ムービーコンテスト」への応募の呼びかけに対しては、参加者のうなずく様子や反応の聲が上がる場面が見られ、会場全体が応募に向けて盛り上がりました。



## ●IYC2025青森県実行委員会が県知事に事業支援と周知を要請

2025年9月22日、「2025国際協同組合年」青森県実行委員会（委員長：JA青森中央会 乙部輝雄会長）が青森県の宮下宗一郎知事を訪ね、2025国際協同組合年にかかる要請を行いました。

これは通常国会における「国際協同組合年に当たり協同組合の振興を図る決議」の採択を受け、青森県の実行委員会が地域における協同組合の役割発揮と貢献をめざして取り組んだものです。要請項目は、協同組合が実施する事業への助成金等を活用した支援と、協同組合の意義と役割についての県民への周知の2点です。

実行委員会の構成組織である、JA青森中央会、青森県生協連、JF青森漁連、青森県森連、ワーカーズコープ北東北事業部の役職員が揃って訪問することで、知事に改めて国際協同組合年について認識いただく機会となりました。乙部委員長からは「支え合いながら地域を盛り上げていくのが協同組合の精神」とのコメントがなされ、今後の県との協働が期待されます。





## ●国際協同組合年 岡山県大会を開催―上野千鶴子氏が登壇―

2025年9月27日、国際協同組合年 岡山県大会がホテルグランヴィア岡山にて開催されました。国際協同組合年にあわせて企画された本大会には、県内協同組合の組合員ら約250名が参加しました。

主催者である岡山県生協連の田中照周会長は、「県内のさまざまな協同組合を知り、それぞれがつながることで新たな未来を切り開いていくきっかけとしたい」と述べました。また、共催した岡山県協同組合連絡協議会の青江伯夫会長（JA岡山中央会）は、「各協同組合は点で活動しているが、この大会を通じて線で結び、さらには世界を見据える組織へと面での活動に発展させたい」と呼びかけました。

つづいて、農協・生協・漁協・森林組合・労協による実践報告が行われました。報告では、漁協・生協・農協が連携して取り組むアマモの藻場再生活動も紹介され、協同組合が地域の持続可能な発展に多様な形で貢献していることが共有されました。

記念講演には、東京大学名誉教授で社会学者の上野千鶴子氏が登壇し、「弱さを力に変える つながる力が拓く社会の未来」と題して講演しました。

上野氏は、介護やジェンダーの課題を例に、弱さを認めささえあう社会の重要性を強調しました。また、「社会は変わってきたのではなく、変えてきたもの」であり、この担い手として協同組合の役割が大きいと述べました。

当日は、若い世代の参加者による質問も寄せられ、励ましの満ちた回答に大きな拍手が送られるなど、活発で温かい雰囲気になりました。

本大会は、協同組合が持つ「つながる力」を再確認するとともに、地域をつなぐ新たな協同の可能性を広げる貴重な機会となりました。





## ●「JAグループ群馬収穫感謝祭2025」開催～フートピア21がブース出展～

2025年9月28日（日）、群馬県前橋市のJAビル南大駐車場において、「JAグループ群馬収穫感謝祭2025」が開催され、群馬県の協同組合連携組織「フートピア21」（構成組織：JA群馬中央会、群馬県生協連、群馬県森連、群馬県漁協連）もブース出展しました。

当日は、会場にブースとステージが設けられ、約8,000人が来場しました。

会場内には、新鮮野菜販売をはじめとする県内JAのブース、JAグループ群馬の各団体等による来場者参加ブース、試食ブースなど63団体が出展しました。

ステージでは、「それいけ！アンパンマン」ショー、農業系高校5校による吹奏楽コンサート、群馬が誇る伝統芸能・八木節などが披露され、家族みんなで楽しめるイベントとなりました。

フートピア21は、群馬県産ヒノキ材を使用した、自分だけの木製メダルをつくる体験ブースを出展。IYC2025にちなんで、各協同組合を紹介するタペストリーを展示して、来場者をお迎えしました。

また、コープぐんまも、試食ブースで、ガラポン抽選会やプリンやヨーグルト、アイスの試食を行いました。

来場者と豊かな実りに感謝し、安全で新鮮な県産農畜産物を消費者のみなさまに直接提供するとともに、協同組合について広く知っていただく機会となりました。



オープニングセレモニーのテープカット



農業系高校の吹奏楽コンサート



JA碓氷安中女性部によるスコップ三味線演奏



フートピア21の木製メダルをつくるブース



フートピア21のブースには協同組合を紹介するタペストリーも展示



チャリティー募金の様子(募金をしていただいた方にチョコバナナをプレゼント)



JA全農Aコープブースの様子

## ●「長野県協同組合フェスティバル2025」が開催～IYC2025 ブースで「夢の樹」をつくりました～

10月5日（日）、「長野県協同組合フェスティバル2025」が開催され、県内外から約9,000人が参加しました。

フェスティバルは、長野県協同組合連絡会が主催し、長野県内の協同組合や関係団体との連携イベントとして開催されました。相互の活動交流ならびに協同組合の活動を県民に広くアピールすることを目的に開催し、今年は国際協同組合年であることから、IYC2025ブースも設置しました。また、今年も「2025善光寺表参道 秋まつり」「三陸大船渡さんままつり」との同時開催となり、大盛況のうちに終了しました。

当日は、32の団体・企業から41ブースが出展し、農協や生協、森林組合、ワーカーズコープ、医療生協など県内の協同組合に加え、長野県社協、フードバンク信州、赤い羽根共同募金、行政などからも協力をいただきました。

長野県内の農産物や加工食品、日用品などの展示販売ブース、被災地支援としての特産品販売ブースに加え、健康チェックや牛の乳しぼり体験、木こり体験、工作コーナー、自転車シミュレーションなど、様々な来場者に活動をアピールする機会となりました。

さらに、IYC2025ブースでは、「長野県のここが好き」や「こんな長野県になって欲しい」をテーマに、約350名の来場者からポストイットにメッセージをいただき、「夢の樹」のポスターを完成させました。「自然」、「くだもの」、「人」が好きというメ



ッセージが多く見受けられ、長野県の魅力と協同組合の精神が結びついていることを強く感じる取り組みとなりました。

#### 【長野県協同組合連絡会】

長野県農業協同組合中央会、長野県信用農業協同組合連合会、全国農業協同組合連合会長野県本部、長野県厚生農業協同組合連合会、全国共済農業協同組合連合会長野県本部、長野県生活協同組合連合会、長野県漁業協同組合会、長野県森林組合連合会、長野県労働金庫、労働者協同組合ワーカーズコープながの、ワーカーズコープ信州、こくみん共済 coop 長野推進本部



IYC2025ブースのタペストリー

フェスティバルの看板では長野県内の協同組合を紹介しています



「夢の樹」へメッセージを書く子どもたち



多くの方がフェスティバルに参加しました



完成した「夢の樹」



コープながののブースにはIYC2025ポスターも飾られていました



## ●新潟県で協同組合まつりが開催～IYC2025クイズラリーも実施～

2025年10月5日（日）、新潟市産業振興センターにおいて「第23回協同組合まつり」が開催され、約4,000人が来場しました。当まつりは新潟県協同組合間提携推進協議会（以下、新潟県提携協）の主催により、多くの協同組合や地元の企業の協賛により開催しています。

当日は、新潟県提携協に加盟するJAグループ新潟や県生協連、県森連、県漁連・新潟漁協、県酪連、ワークスコープなどがブースを出展しました。親子で参加できる「からだをそだてる」運動体験、県産農畜産物の販売・試食、健康チェック、木工教室、魚とふれあえるタッチプール、お金に関わるクイズ、疑似牛による搾乳体験、地震・浸水のVR体験など多様な体験や展示を通じて、それぞれの協同組合の活動や特徴について知っていただきました。

また、ステージイベントでは、「それいけ！アンパンマンショー」や出展団体の「着ぐるみたちとハイタッチ＆写真撮影会」などを実施し、ご家族やお子さまにも楽しんでいただきました。

さらに、今年は会場内の4か所にクイズコーナーを設け、「IYC2025クイズラリー」を実施しました。来場者は、クイズラリー、スタンプラリーへの参加、そしてアンケートへの回答によって、最大3回までガラポン抽選に参加でき、楽しみながら、IYC2025や協同組合について学ぶことができました。

なお、会場で販売した、「協同組合おすすめ！お食事セット」は、殻付きしじみとしめじの和風チャウダーと炊きたてごはんを組み合わせたもので、限定300セットが完売しました。殻付きしじみは新潟漁業協同組合、しめじは津南町森林組合、牛乳は新潟県酪農業協同組合連合会の提供で、そのほかの具材も新潟県産・国産のものが使用されていました。



開会式の様子



新潟中央短期大学学生による「みんなおい  
でよ！ワクワクウキウキ手遊び・ダンス♪」



着ぐるみ達とハイタッチ＆写真撮影会



【新潟県酪連】搾乳体験



【新潟県漁連・新潟漁協】お魚ふれあいプール



【新潟県森林組合連合会】木工教室



【JA共済連新潟】「からだをそだてる」運動体験



【パルシステム新潟ときめき】「つながり」メッセージツリー



「協同組合おすすめ！お食事セット」



## ● 協同組合ながさき連絡会、2025年国際協同組合年合同研修会を開催

10月4日（土）、長崎県内の協同組合・協同組織11団体の役職員ら約240人が集まり、「2025年国際協同組合年合同研修会」が開催されました。

冒頭、主催者および来賓からのあいさつの後、研修Ⅰ部では、JCAの比嘉専務が「協同組合理念と協同組合間連携について」と題する講演を行いました。協同組合の価値や役割を社会に伝えていくことの意義を自身の経験をもとに語り、一人ひとりが担う役割を考える機会になりました。

休憩を挟んでからは、研修Ⅱ部として、東京大学の特任教授・名誉教授で、食料安保推進財団の理事長でもある鈴木宣弘氏が「食料安全保障における協同組合の役割」と題する講演を行いました。JAや漁協は、安全な農水産物の安定供給をして、それを生協が購入し消費者に供給することが食料安全保障につながるという内容でした。

最後に宣言文を採択して、合同研修会が終了しました。



## ● 協同組合ふくおかネットワーク推進協議会が福岡県知事と会談

10月20日に協同組合ふくおかネットワーク推進協議会の乗富幸雄代表（JA福岡中央会会長）と堤新吾副代表（福岡県生協連会長）は、福岡市内の県庁を訪問し、服部誠太郎福岡県知事と会談しました。

服部福岡県知事からは「日常の活動、協同組合の事業活動の中でどう連携できるかが非常に大きいのではないか。」と、協同組合の連携について期待する発言がありました。

それに対して乗富代表は「生産と消費がまとまって連携すれば、それぞれの組合だけでは、これまで不可能だったことも、できるようになるはずだ。」と述べました。

また、堤副代表は「昨年度は農水省の「食品産業もったいない大賞」で農水省大臣官房長賞を受けた。生産者とメーカーと生協と、県産の小麦や大豆を使った地域貢献も行っている。」と報告しました。

会談では協同組合の社会的役割、連携活動や地域への貢献について意見を交わしました。また、12月に開催を予定している「IYC2025福岡記念大会」の概要についても説明をしました。





左から、堤副代表、服部県知事、乗富代表

## ●こくみん共済 coop 埼玉推進本部主催「IYC2025事業 こくみん共済 coop セミナー」で基調講演を行いました

2025年10月27日（月）、こくみん共済 coop埼玉推進本部が主催する「IYC2025事業 こくみん共済 coop セミナー」がTHE MARK GRAND HOTELで開催され、JCAのIYCプロジェクトチーム 丹後真一 マネージャーが登壇しました。

本セミナーは、各労働団体・協力団体・関係団体(連合埼玉、埼玉労福協、労働金庫、県生協連)の役員を対象に開催され、91名（会場60名・オンライン31名）が参加しました。

JCAの丹後マネージャーは、基調講演「労働組合と協同組合の連携について考える～国際協同組合年を機に～」の中で、①国際協同組合年、②協同組合、③協同組合のアイデンティティ、④労働組合と協同組合の連携について説明し、最後に、労働組合と協同組合の連携には労福協の協力が必要であることや、連携のキャッチフレーズ「ゆるやか」、「あいのり」、「やってみる」を呼びかけました。

続く講演Ⅰでは、社会起業家／元サイボウズ株式会社社長室フェローの野水克也様が、「被災者、そして支援者として体験した能登半島地震 できたことできなかったこと」と題し、ご自身の能登半島での被災体験をもとに、日頃からの備えやIT支援の必要性、被災地の自立支援について述べられました。

最後の講演Ⅱでは、篠原FP事務所代表の篠原充彦様が、「元お笑い芸人ファイナンシャルプランナーが教える！世界一わかりやすいお金の話」と題し、「お金を使う能力」、「お金を増やす能力」を中心に、必要な老後の資金や、新NISA・iDeCo・新団体年金共済（こくみん共済coopの商品）の活用について、制度のメリット・デメリットを交えながら説明されました。

セミナーを通じて、協同組合への理解促進や認知度向上、労働組合と協同組合の連携に対する意識啓発を促すことができました。



開会挨拶をするこくみん共済 coop 本部長  
近藤 嘉 様



基調講演をするJCA IYCプロジェクト  
チームマネージャー 丹後 真一

## ● 岡山県で国際協同組合年のテレビ・ラジオCMを放映 — 協同組合の理念を地域に広く発信 —

岡山県協同組合連絡協議会を構成する県内の協同組合は、2025国際協同組合年を契機としてテレビ・ラジオCMを放映しました。これらのCMは、持続可能な開発目標（SDGs）の実現に取り組む協同組合の価値や役割を、地域の皆さまにわかりやすく伝えることを目的に制作されました。

テレビCMが放映されたのは、JAグループプレゼンツRSK山陽放送「笑味ちゃん天気予報」で、地域の農業と天気を伝える密着型の人気コーナーとして多くの県民に親しまれています。今回のCM放映により、協同組合への理解促進と共感の輪がさらに広がることを期待されます。

テレビCMはこちら

[https://www.japan.coop/wp/wp-content/uploads/2025/11/c8df8b9c637a1fe43d556434af38ce67.mp4?\\_=2](https://www.japan.coop/wp/wp-content/uploads/2025/11/c8df8b9c637a1fe43d556434af38ce67.mp4?_=2)



ラジオCMはこちら

[https://www.japan.coop/wp/wp-content/uploads/2025/11/358556db1048bf5b7bd170af5a34e849.mp3?\\_=3](https://www.japan.coop/wp/wp-content/uploads/2025/11/358556db1048bf5b7bd170af5a34e849.mp3?_=3)



[https://www.japan.coop/wp/wp-content/uploads/2025/11/d4b0619e3b128fff5ef69d96c0382f01.mp3?\\_=4](https://www.japan.coop/wp/wp-content/uploads/2025/11/d4b0619e3b128fff5ef69d96c0382f01.mp3?_=4)



## ● 島根県の協同組合がフィンランドとドイツの協同組合を視察 —国際協同組合年を契機に、協同の原点と未来を学ぶ—

2025年9月、島根県の協同組合がフィンランドおよびドイツにおける協同組合の取り組みを学ぶ視察研修を実施しました。

今回の研修は、2025年の国際協同組合年にあたり、持続可能な地域づくりと協同組合の新たな役割を考える機会として企画されたものです。IYC2025の取り組みとして国内の協同組合が海外視察を実施するのは、全国的にも珍しい取り組みです。

視察団は、フィンランドにおける協同組合の中央組織であるペレルボ協会（Pellervo Society）を訪問し、協同組合が社会・経済に果たしてきた役割、SDGsやIYC2025への取り組み、地域に根ざした協同の文化について学びました。

続いてドイツでは、ドイツ協同組合連合会（DGRV）を訪問し、再生可能エネルギーを活用したエネルギー協同組合の展開や、地域社会との連携、倫理的消費への取り組みなどについて意見交換を行いました。

また、現地の日本大使館を訪問し、フィンランド・ドイツ両国における社会経済の動向や協同組合の政策的な位置づけについて説明を受け、国際的な協同の潮流に対する理解を深めました。

今回の研修で得られた知見は、県内の協同組合間連携での活動にも活用することが予定されています。



## ● 富山県協同組合協議会、意見交換会を開催 ～富山県内の協同組合10団体職員ら意見交換～

2025年11月7日、富山県協同組合協議会は、協同組合間の連携をはかるため、県下10団体による意見交換会を開催しました。

富山県協同組合協議会は、IYC2025にあたり、協同組合間の連携を強めており、漁業、林業、農業、医療に携わる若手職員23名を集め、富山県内で初めて意見交換会を開催しました。

講師兼ファシリテーターのJCA澤田マネージャーは、「協同組合は、地域に根差した組織。地域の課題解決に向けて知恵を絞り、協同組合が協力して取り組む活動を進めた



い」と話していました。

参加した協同組合は、JA富山中央会、JA全農とやま、富山県森林組合連合会、新川森林組合、立山山麓森林組合、富山森林組合、富山県整備森林組合、富山県漁連、とやま生協、富山医療生協

はじめに、参加者一人一人が、自分の担当する業務を報告した後、3～4名による6つの混成グループに分けられました。

テーマは、「収穫体験・漁協体験・イベントについて」「合同企画商品の開発」「協同組合の職場相互訪問」「合同就職説明会」「店舗・直売所・食堂について」の5つでした。

どの職場を訪問すればお互いの理解が深まるのか、連携イベントやどのように連携して合同企画商品を開発するかなど、グループごとに話し合いました。

「富山の食を楽しむツアー」、「手ぶらで楽しめるキャンプ場」や、「移動販売車の買い物支援」「共同の交流サイトアカウント」、「商品カタログの作成」などの意見がだされました。

富山県協同組合協議会が実施した意見交換会は、お互いを知る大切な機会であり、富山の協同組合連携をはかるうえで、大きな一歩となりました。



意見交換会、自己紹介と職場紹介(全員から紹介)



意見交換会、グループ発表(全員からコメント)

## ● 徳島県鳴門市で第4回「賀川豊彦ゆうあいフェスタ」を開催 —ICA「協同組合文化遺産」に認定された記念館にて—

11月8日（土）から16日（日）までの9日間、鳴門市賀川豊彦記念館およびその周辺施設にて「第4回 賀川豊彦ゆうあいフェスタ」が開催されました。

今回のフェスタでは、生協・農協・森林組合・労働者協同組合などの分野を超えた複数の協同組合が一堂に会し、互いの強みを活かして連携しながら、地域社会での実践を広く発信しました。

8日のオープニングイベントでは、チャリティウォーク、ステージショー、キッチンカーの出店など家族連れや幅広い世代が楽しめる催しが行われました。また、期間

中は「映画上映と講演会」「賀川豊彦ゆかりの地をめぐるバスツアー」「秋祭り」など、多様なプログラムが実施され、来場者にとって「協同組合の父」と言われる賀川豊彦が追い求めた“協同”や“友愛”といったメッセージを体感できる場となりました。

本フェスタでは、特に「協同組合間連携」が企画の大きな柱となりました。例えば、生協・農協・森林組合が横並びでブースを出展し、商品や県内での活動を来場者にPRしました。また、国際協同組合年を記念した労働者協同組合による講演会も開催されました。

初日のオープニングだけでも多くの市民・家族が来場し、「楽しいステージだった」「色々な協同組合のことを知ることができた」といった声がありました。

徳島県の協同組合は、今回のフェスタで得られた協同組合間の横のつながりを、来年以降の活動へとつなげる予定です。国際協同組合年をきっかけに、協同組合間の連携が着実にひろがっています。

(詳細はこちら)

鳴門市賀川豊彦記念館 - 鳴門市賀川豊彦記念館ウェブサイト

<https://www.kagawakan.com/>



今回の会場となった鳴門市賀川豊彦記念館は、2025年11月13日に国際協同組合同盟（ICA）が立ち上げた「協同組合文化遺産」プロジェクトにおいて、「協同組合文化遺産」として認定されました。これにより鳴門市賀川豊彦記念館はイギリスの「ロッチデールパイオニアミュージアム」など、世界の代表的な協同組合文化遺産と肩を並べることとなります。同プロジェクトは、世界各地の協同組合の歴史や文化を未来へ継承することを目的に発足したもので、第一弾として25か国31か所が選定されました。

【関連リンク】

ICAが協同組合文化遺産リストを発表～日本から鳴門市賀川豊彦記念館が認定される（JCAウェブサイト内）

<https://www.japan.coop/wp/21361>



ステージ企画に登壇する地域の子どもたち



JA徳島県のブース(県産品を紹介)





徳島県森林組合連合会のブース(県産材を使ったクリスマスグッズを展示販売)



とくしま生協のブース(コープ商品の案内)



徳島健康生協のブース(健康チェックの実施)



フードバンクのキッチンカー(子ども食堂を実施)

## ● 2025国際協同組合年記念フォーラムinいしかわ

2025年11月10日(月)、石川県漁業協同組合、石川県森林組合連合会、石川県生活協同組合連合会、石川県農業協同組合中央会の4団体の共催で、「2025国際協同組合年記念フォーラムinいしかわ」が開催されました。

このフォーラムは、同県内の協同組合の組合員・役職員が、協同組合に対する認識を深め、自らの役割と協同組合の可能性を共有するとともに、昨年発生した能登半島地震および奥能登豪雨を踏まえ、防災・減災に向けた備えを学習すること等を目的に開催されました。

当日は県内協同組合4組織の、組合員・役職員約240名が参加しました。

JCA比嘉専務によるIYC2025の意義と協同組合間連携に関する情勢報告のあと、能登半島地震に際し現地に派遣されたDMAT(災害派遣医療チーム)の一員として尽力されたJA愛知厚生連江南厚生病院の石黒秀則係長から、DMATの活動と得られた教訓、今後の課題について報告がありました。

また、基調講演として、元気象庁長官で、現在は東北大学大学院の西出則武特任教授より、「能登半島の地震災害と豪雨災害を振り返る一正しく恐れ、備えるために一」と題する講演が行われました。

同講演では、日本の今後の気候変動予測を前提に、「大雨等の予測精度が向上している。気象現象は激化すると予想されるが、防災リテラシーを向上させ、正常化バイアスを取り除くよう努力すれば、さらに多くの人命を救うことができるようになる。」と強調されました。

フォーラムの最後に「経験した大災害と国際協同組合年を契機に、本日学んだ防災対



策等をふまえ、協同組合はあらためて使命と役割を認識し、真摯に事業活動に取り組む」  
「様々な協同組合が手と手を取り合うことにより、より良い地域社会の実現に向け、邁進する」等とする決議を採択しました。



「協同組合アイデンティティに関するICA 声明」を説明するJCA比嘉専務



「能登半島地震・災害派遣医療チーム」を説明するJA 愛知厚生連・石黒氏

## ● 静岡県での「協同組合学習交流会」でファシリテーターを務めました

11月14日（金）、静岡県内の協同組合10団体の若手職員48人が集まり、「2025 国際協同組合年協同組合学習交流会」が開催され、JCA 協同組合連携2部の小島愛美 連携推進マネージャーとIYCプロジェクトチームの丹後真一マネージャーがグループワークのファシリテーターを務めました。

当日は、グループワークに先立ち、2つの講演が行われました。講演1では、公益財団法人 賀川事業団 雲柱社 賀川豊彦記念松沢資料館 常務理事・刈谷雅夫氏より、「賀川豊彦の協同組合思想と実践」と題した講演が行われました。賀川豊彦の生い立ち、協同組合理論、世界的評価などについて幅広く紹介され、参加者にとって賀川豊彦の歩みと思想を深く知る機会となりました。

続く講演2では、フードバンクふじのくに 事務局長・望月健次氏より、「フードバンクと食料支援」と題し、フードバンクの仕組みや生活困窮の解決に向けた支援の取り組みについて説明がありました。会場では余剰食料の受付も行われ、参加者は持参した食料を寄せ合い、フードドライブ活動に協力しました。

休憩を挟んだ後のグループワークでは、参加者が9班に分かれ、「自己紹介＆私の組織紹介」および「協同組合間提携で生まれる可能性」をテーマに意見交換を行いました。JCAの小島マネージャーと丹後マネージャーが全体ファシリテーターとして各班の議論を促し、各組織での地域貢献活動や地域・社会の困りごとを踏まえながら、協同組合が連携して取り組めそうなプロジェクトについて、自由に話し合いました。

最後に班ごとにまとめたプロジェクトの発表が行われました。この中には、中山間地での土地活用や、災害時の衣食住ネットワーク連携など、静岡県ならではの【困りごと】をテーマにしたものもあり、参加者が協同組合間提携の可能性を実感できる内容となりました。



開会あいさつをされる山下登紀夫氏



講演1の刈谷雅夫氏



講演2の望月健次氏



グループワークでファシリテーターを務める  
丹後真一氏



グループワークでファシリテーターを務める  
小島愛美氏



グループワーク発表の様子



交流会会場で実施したフードドライブ活動